

2024年度 事業報告書

我が国の貴重な無形文化財である人形浄瑠璃文楽の保存及び普及を図るため、国、大阪府並びに国立文楽劇場及び国立劇場と密接な連携を図りながら、人形浄瑠璃文楽の伝承者の養成、研修発表、資料の収集・整理並びに管理運営業務を実施した。

1. 公演事業

(1) 本公演（国立文楽劇場、国立劇場主催）

公演日数は、大阪・東京を併せて、136日となった。

（ ）内は、前年度実績

公 演 地	期 間	日数・公演数	観 客 数
大 阪 (国立文楽劇場)	4/6～4/29	23 日 69 回	17,293 人
	7/20～8/12	22 日 66 回	15,531 人
	11/2～11/24	22 日 44 回	16,601 人
	(2025) 1/3～1/26	23 日 69 回	18,604 人
計		90 日 248 回 (81 日 243 回)	68,029 人 (68,555 人)
東 京 (シアター 1010、江東区文 化センター・神 奈川県立青少年 センター、きゅ りあん・文京シ ビックホール)	5/9～5/27	18 日 36 回	11,258 人
	12/4～12/19	12 日 36 回	10,906 人
	(2025) 2/8～2/26	16 日 48 回	14,193 人
計		46 日 120 回 (51 日 153 回)	36,357 人 (60,117 人)
合 計		136 日 368 回 (132 日 396 回)	104,386 人 (128,672 人)

(2) 地方公演（文楽協会主催）

地方公演は、本公演がない秋季及び春季に全国各地を巡演し、各地の文楽愛好家の期待に応えるとともに、新規顧客の開拓に取り組む事業である。2024年度は、前年度より2日増の18日の公演となった。

（ ）内は、前年度実績

公 演 地	期 間	日数・公演数	観 客 数
山口、三重、神奈川、広島、石川、静岡、愛知、富山、宮城、北海道、東京	10/3～10/20	11日 21回 (8日 16回)	8,985人 (6,919人)
群馬、栃木、埼玉、福岡、京都	(2025) 3/7～3/16	7日 14回 (8日 16回)	4,247人 (5,433人)
合 計		18日 35回 (16日 32回)	13,232人 (12,352人)

(3) 特別公演事業

特別公演事業については、8月の内子座文楽公演および例年出演しているギオンコーナーについても若干回数減はあったものの実施できた。

また、昨年に引き続き「文楽キャラバン公演」等、新たな切り口での文楽公演にチャレンジし、文楽初心者やインバウンドの方々に文楽に接してもらう機会を創出した。

・主な特別公演事業

公 演 名	期 間	日数・公演数	観 客 数
内子座文楽	8/24～25	2日 4回	1,500人
文楽キャラバン公演 (NHKアトリウム・なんばガリアコート・空中庭園・大阪くらしの今昔館)	9/28～29 10/8～9 12/21	1日 1回 2日 2回 1日 1回	530人
中之島文楽	10/25～26	2日 2回	1,230人
西濃運輸カナルコンサート人形浄瑠璃公演	3/13	1日 1回	510人
はじめての文楽公演	3/29	1日 1回	730人
合 計		10日 12回	4,500人

2. 伝承者養成事業

技芸の伝承・向上を目的として、師匠・弟子間の研修・指導等に重点をおいた取り組みを推進し、技芸員 83 名のうち指導する側 31 名に講師等指導者謝金を、指導を受ける側の 52 名に研修（修業）手当を支給した。

（1）契約技芸員（令和 7 年 3 月 31 日現在）

契約技芸員数	太 夫	三味線	人 形
82 名	21 名	22 名	39 名

※R7/2/28 吉田文司逝去により人形部 1 名減

（2）若手技芸員の勉強会等の実施

若手技芸員の實力向上を図るため、師匠・弟子間の指導、稽古を重視して推進するとともに、基礎的な演技力の伸長を目途に、国立文楽劇場及び国立劇場と連携して錬成・発表の場を設けた。

- ・若手技芸員が自発的に取り組む、若手技芸員公演「若手会」（6 月）・「^{ふくじゅ}蝠聚会」（8 月）を実施した。
 - ・国立文楽劇場及び国立劇場の主催で若手技芸員を登用して公演される「文楽鑑賞教室（6 月・大阪）（12 月・東京）」が開催され、日頃の修行の成果を発表し、有為な文楽技芸伝承者の養成に努めた。
 - ・文楽研究生 3 名については、文楽技芸の研修について支援を実施した。
 - ・若手技芸員の实地研修として府民、市民や学生を対象とした初心者向けの「文楽ミニ公演」を計 3 会場で実施するなど、若手技芸員の発表、自己研鑽の場を拡げた。
- なお、令和 6 年度の主な若手技芸員勉強会等の実施結果は、次のとおりである。

① 若手会

劇場名	実施時期	実施回数
大阪（国立文楽小劇場）	6 月	2 日（2 回）

② 蝠聚会

劇場名	実施時期	実施回数
大阪（国立文楽小劇場）	8 月	1 日（1 回）

③ 文楽鑑賞教室

劇場名	実施時期	実施結果
大阪（国立文楽劇場）	6月	14日（28回）
東京（国立劇場）	9月	15日（30回）
計		29日（58回）

④ 文楽ミニ公演

会場名	実施時期	実施回数
市民会館大ホール（寝屋川市）	7月	1日（2回）
ゴウダホール（茨木市）	1月	1日（2回）
国立文楽小劇場（大阪市）	3月	1日（2回）

（3）文楽協会賞表彰 4名

1年間真摯に舞台を務め、技芸の向上が著しい若手技芸員に対し、例年通り文楽協会賞を贈った。

（太夫）竹本小住太夫、（三味線）鶴澤清公、（人形）桐竹勘次郎、桐竹勘介

3. 普及啓発事業

（1）文楽を中心とした古典芸能振興事業（大阪市）

「文楽を中心とした古典芸能振興事業実行委員会」（構成：大阪市、文楽協会）が実施する各種事業に協力した。

- ・「中之島文楽」、「文楽キャラバン」「みて きいて ぶんらくのおはなし」の公演事業
- ・フリーペーパー「人形浄瑠璃 文楽の世界」の制作

（2）ワンコインで文楽（11月・初春公演期間中）

サントリーホールディングス様のご支援により、若年層（15歳～35歳）をターゲットとしたワンコイン文楽を実施し、507名を動員することができた（協力：公益財団法人関西・大阪21世紀協会）。

（3）メディアへの露出

- ・桐竹勘十郎 ぴあフィルムフェスティバル参加作品「道行き」に出演

- ・勘十郎一門 NHK ドラマ「母の待つ里」に出演
- ・吉田一輔 NHK「芸能きわみ堂」出演、アルゼンチンタンゴと人形浄瑠璃の競演

4. 運営

(1) 評議員会の開催 6月21日

決議事項：2023 年度事業報告について

2023 年度計算書類について

評議員の選任について

監事の選任について

理事の選任について

(2) 理事会

・第1回理事会 5月24日

決議事項：2023 年度事業報告について

2023 年度計算書類について

評議員会の招集について

報告事項：理事長の職務執行状況報告について

賛助会員の入会依頼活動状況について

・第2回理事会 3月26日

決議事項：2025 年度事業計画について

2025 年度収支予算について

文楽基金の一部取り崩しについて

2025 年度国庫補助事業実施決議について

運営資金の短期借入れ並びに担保の提供について

協会就業規則の改定

報告事項：岸本忠三文楽支援基金取崩し見込み額について

理事長の職務執行状況報告について

公益財団法人文楽協会賛助会員の入会状況について

(3) 賛助会員制度の実施状況

文楽協会の安定した財政運営の一助となるよう、当会の事業趣旨に賛同いただく個人、法人から幅広く支援を募る「公益財団法人文楽協会賛助会員制度」は、2025 年 3 月末現在、個人会員 271 人（424 万円）、法人会員 28 社（1,965 万円）。また、それ以外に寄付（個人：15 名・1,378 万円、法人：3 社・64 万円）を頂戴している。

【 附属明細書 】

事業報告書に詳細まで記載しているため、記載する事項はありません。